

令和 8 年 度 事 業 計 画

社会福祉法人あゆみの会

総 論

令和8年度は昨年度と引き続き認可保育園5園、企業主導型保育園1園の計6園体制となる。認可定員は435名、職員数は約220名～230名を想定している。

選ばれる園づくりのため、子どもの最善の利益の実現を念頭に、保護者の方への子ども支援とそれを支える職員の就労環境のバランスをとることが大切である。

透明性ある運営に努め、保育内容や法人情報等について一層の情報公開・発信を進めていく。すまいる保育ガイドラインやすまいる委員会、ワークショップやぐうたらジャーニー等により、保育者の当事者意識を高め、自分たちのルールは自分たちで決める、保育に参画する・できるという意識を高めていく。

本年度も子ども主体の環境を通じた教育を推進しホームページやSNS、保育ガイドラインやパンフレット等、情報ツールを充実する。

1. 運営体制の整備

- ・すまいる委員会に「提案」「承認」「実行」「確認」のサイクルを確立し、意思決定、責任の所在を明確化する（委員長通達制度）
- ・誰もが提案しやすい環境（びんぼん提案箱：とりあえず言ってみるBOX）を設置
- ・すまいる保育ガイドラインを刊行、法人全体で保育や運営を共有する。
- ・スプレッドシートの活用による決済システムの確立（部長会決裁シート）
- ・ポータルサイトによる全職員への情報周知

2. 保育の質を向上します。

- （1）クレドの共有（法人理念、保育理念、保育目標、保育心得）
- （2）自然（戸外）の保育
- （3）国内・海外保育交流の推進（井上先生の指導園、ギビングツリー、フレネ学校他）

3. 安定運営を心がけ職員採用、定着率を向上します。

- （1）年間休日の増加（令和8年度 114日）
- （2）短時間職員制度（育休対応等）
- （3）時間単位有給制度
- （4）年単位の変形労働時間制より月単位の変形労働時間制へ変更
- （5）処遇改善（俸給・職務手当）
- （6）広報活動の強化

4. 職員を育成します。

- （1）ぐうたら村研修（外部出張研修）（汐見稔幸先生）
- （2）けやの森自然塾講座
- （3）階層別研修（トミーの日）（富山大士先生）

(4) 保育環境ワークショップ（井上寿先生）

(5) 保育士資格取得支援制度を新設します。

5. ICT 化を推進します（事務の合理化、保育・保護者対応等）

法人内クラウドシステムぴんぼん（グーグルワークスペース）の活用により業務効率化を図る。

- ・ 全職員に個人単位でのメール付与（個人 ID）
- ・ 共有ドライブ
- ・ 業務用チャット（個人 LINE の業務での使用を中止）
- ・ グーグルミート（委員会等の同時開催に対応）
- ・ ジェミニ（AI の活用）
- ・ カレンダー
- ・ クラスルーム（研修等での活用）
- ・ ポータルサイト
- ・ グーグルフォーム他

6. 社会福祉充実計画の再検討

(1) 伊佐沼地区 LOCO タウンについて見直し（地主の方針転換による）

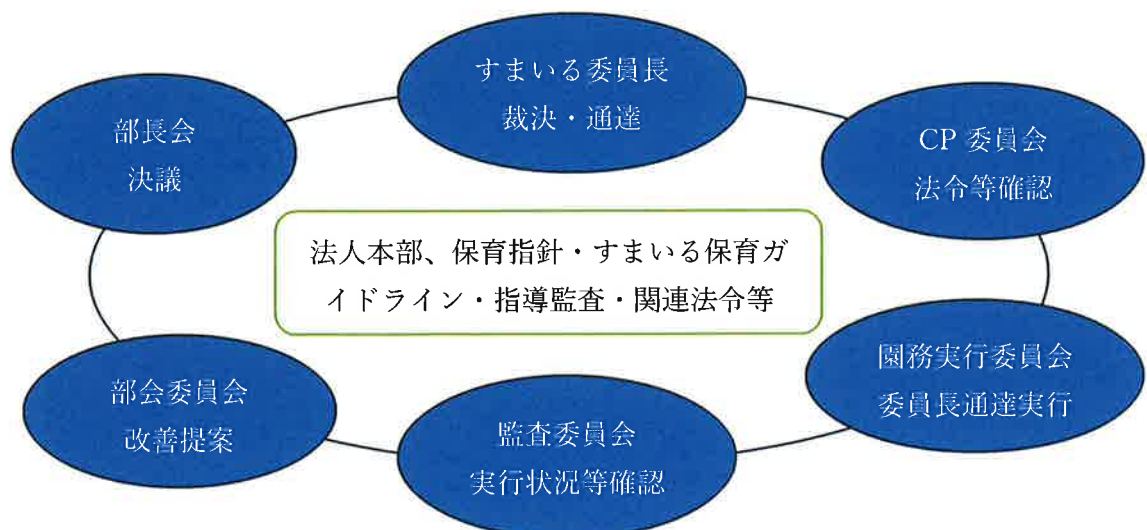
(2) 鶴ヶ岡すまいる保育園・伊佐沼すまいる保育園の幼保連携型認定こども園化を進める。

各 論

1. あゆみの会の業務サイクル

(1) すまいる委員会

- ・ すまいる委員会はあゆみの会の基幹であり、すまいる委員長は法人理事長が務めます。
- ・ すまいる委員長は法人最高責任者として法人・施設運営に最終的な責任を負うとともに、社会福祉法人理事長としての専決事項の他、法人内の規定改正、人事・総務、財務・経理等、最終的な経営判断を行います。
- ・ すまいる委員会には「提案」（部会委員会）「決定」（すまいる委員長・部長会）「実行」（園長・園務実行委員）「確認」（監査委員）のサイクルがあります。
- ・ 法人運営、園の保育はすまいる委員長通達、保育ガイドライン、にこちゃんマニュアル、園のしおり等に基づき進めます。
- ・ 部会委員会は部会長・各部会委員長が招集します。部会委員会委員はそれぞれの課題等について各園を代表し審議・検討し部長会に提案します。部長会は部会委員会の提案を審議し、提案の内容、審議の経過、結果についてすまいる委員長に上申します。
- ・ すまいる委員長は部長会の審議等に基づき決裁を行い、委員長通達を発出します。
- ・ 部会長・園長・副施設長（以下「園長等」という。）は実行のための責任者です。園務実行委員とともに通達やマニュアル等の園務を実行、監査委員会は各園の実行状況を確認、監査結果について、すまいる委員長に報告します。



(2) すまいる委員長通達

- ・ すまいる委員長は法令や自治体、保育所保育指針の改定や経済・社会状況などに基づき、継続的かつ健全な法人運営を行うため、すまいる委員長通達（以下「委員長通達」という。）を発出します。

(3) コンプライアンス委員会

- ・ コンプライアンス委員会（以下「C P委員会」という。）は委員長通達・ガイダンス、各種規定等、法人ルールについて、法的な問題点、ガイドライン、保育所保育指針、自治体の監査事項等に抵触する部分がないかチェックし、コンプライアンス委員長は執行理事が務めます。
- ・ C P委員長は法人ルールに法的な問題点がある場合、すまいる委員長と協議を行います。
- ・ C P委員会は規定改訂やハラスメント等への対応の他、施設・本部等での契約事務や法的対応を行います。必要に応じ顧問弁護士や社会保険労務士、経理アドバイザー、保育専門家等の外部アドバイザーと連携します。
- ・ 園長等、園務実行委員会、監査委員会とともに委員長議決案、部長会議決案、法人の運営、契約行為等について、各種法令、保育所保育指針、ガイドライン、規約等に照らし、適正な運営がなされていることを確認します。
- ・ C P委員会は施設運営等にガイドライン、法的・指導監査等の問題点があれば、すまいる委員長に報告、園長等に速やかに修正を促します。

(4) 部会長会

- ・ 部長会は部会委員会及び園職員からの提案を審議し、すまいる委員長に裁決を上申します。
- ・ 部長会はすまいる委員長より審議を求められた場合、その内容を審議し、すまいる委員長に上申します。
- ・ 園長等はすまいる委員長より発出される委員長通達の実行最終責任者として、各園の園務実行委員とともに通達内容が期限に遂行されるよう、実行体制、シフト等を整え進捗状況を確認します。

(5) 部会委員会

- ・ 部会委員会は法人全園の業務をテーマ毎に集約する委員会です。部会長、部会委員長は各園の意見等を踏まえ、各部会委員会のテーマや課題等を設定します。
- ・ 部会委員会の委員は各園を代表し委員会に出席し主に「ガイドライン」「にこちゃんマニュアル」「園のしおり」の見直し、保育・運営についての提案、理事会・部長会から要請を受けた事項を審議し部長会に提案します。

(6) 園務実行委員会

- ・ 園務実行委員会は、施設長と共にガイドライン・委員長通達等を園内に周知し実

行を担います。ガイドライン・委員長通達等を実行する最終責任者は園長等となります。園長等は園務実行委員とともに園務の実行のため、決議内容に合わせ必要な実行体制やシフトの調整し、実行内容を期限内に遂行します。

(7) 監査部会

- ・ 監査部会は、委員長通達、ガイドラインや指導監査自主点検表に基づき、各施設の運営、保育について確認を行います。
- ・ 監査部会委員は基本的に自園監査を行いません。
- ・ 監査の結果はすまいる委員長に報告、すまいる委員長は必要に応じ園長等に改善命令を発出します。
- ・ 改善命令を受けた園長等は、速やかに改善し、その結果をすまいる委員長に報告します。

令和8年度すまいる委員会

部会名	委員会	主な内容等
保育食育	環境発達・食育委員会	保育環境・食育の改善他
	戸外・WS委員会	園庭・戸外活動・ビオトープ、ワークショップ他
研修広報	人材育成委員会	年間・個別・合同研修計画の周知と作成 富山先生トミーの日他
	広報おもてなし委員会	広報・園訪問者受入
安全	安全・看護委員会	安全計画・マニュアル整備・ひやりはっと分析・安全訓練 保護者対応（オンラインQQ）・保健計画・保健だより 衛生管理指導・健康診断他
	養護委員会	排泄・午睡・着脱・食事等の生活介助 配慮を要する子・情緒の安定他
生活	生活・遊び委員会	生活と遊びを通じた学び・生活習慣・清掃・整理整頓他
	厨房委員会	食事の安全（アレルギー）衛生・調理技術や知識 食育指導、献立、食育だより他
総合	園務実行委員会	すまいる委員長・部長会等の決議事項の実行他
	業務改善委員会	業務マニュアル（手続・申請等） ICT（ぴんぼん）他

監査	監査委員会	園務実行状況の確認及び評価 指導監査等の対応他
----	-------	----------------------------

2. 保育の質を向上します。

1. クレドの共有（法人理念、保育理念、保育目標、保育心得）

クレド（Credo）とは、ラテン語で「信条」「志」「約束」を意味する言葉で、法人の行動指針や価値観を表現したものです。

職員が理念を共有することは、業務を円滑に進め保育の質を担保するうえでも重要です。そのため昼礼等でのクレドを唱和したり園内掲示を行うことで職員がクレドを共有します。

○ 社会福祉法人あゆみの会のクレド

たっぷり、じっくりとまざり、ゆったりと暮らす

○ 令和8年度保育テーマ

やってみたいの体験で好きを伸ばし自ら考え生活をつくりしなやかで強い心を育む保育

（法人理念）	笑顔を増やす
（保育理念）	自分のことが好きな子を育みます 自分のことがでる子を育みます
（保育目標）	からだを使うのが大好きな子を育みます あたまを使うのが大好きな子を育みます ひとと関わるのが大好きな子を育みます
（保育心得）	時間と空間の制限を緩やかにします こどもの自由な挑戦を大切にします 目に見えない理由に寄り添います

○ 令和8年度の保育

- ・ 好奇心は子どもの生きる力のエンジンです。自然や屋外には子どもたちの興味・関心を刺激し、好奇心を養う環境がたくさんあります。
- ・ 令和7年度のビオトープ活動を継続発展し、植物を育み、生物が生まれる環境を整え自然の不思議さ、自然を慈しむ気持ちを育みます。
- ・ ビオトープを活かしきれていない、活動の仕方が分からない等により、戸外活動が収縮しないよう委員会で各園を支えます。
- ・ 三丁目すまいる保育園・となりのすまいる保育園には園庭が無く、街を保育園にをテーマに屋外でも活動を増やしていきます。
- ・ 絵本、昆虫の専門家、書道師範等、法人内の専門家の知見を法人全体の保育に活用する。

（3）国内・海外保育交流の推進（井上先生の指導園、ギビングツリー、フレネ学校他）

価値観を共有する全国の園と「社会福祉連携推進法人」の協議を行います。

3. 安定運営を心がけ職員採用、定着率を向上します。

(1) 労務環境の改善

- ・ 年間休日の3日間増（令和8年度114日）
- ・ 月単位変形時間労働制の導入（令和9年度以降、見直しの可能性あり）
- ・ 時間単位の有給
- ・ 短時間職員（育休復帰を想定）
- ・ 労基に関する法令への対応（カスタマーハラスメント・性暴力防止等）

(2) 職員採用について

令和9年度より板橋保育園の0歳児の受入、幼保連携型認定こども園化への対応をすすめる。転居・婚姻等による自然退職、出産・介護等による休職を見越し、令和8年度は概ね以下の採用をハローワーク、社会福祉協議会埼玉県福祉人材センター、養成校、HP等の広報により進めていく（職員の異動状況に応じ、適宜見直しを行う）。

	保育教諭	事務	保育補助	看護師	栄養士・調理員
常勤職員	6名以上	1名以上	-----	1名以上	1名以上
非常勤職員	6名以上	-----	4名	1名以上	2名以上

4. 職員育成について

- ・ グーグルクラスルームの活用による往還型の研修（トミーの日）
- ・ 提案制度を充実し、当事者意識を高める。
- ・ 入職時のオリエンテーションを充実する（すまいる保育ガイドラインの活用）
- ・ 常勤保育士だけでなく非常勤保育士・保育補助・厨房職員等に対する研修を行う。
- ・ 法人園間で園の相互訪問や交換保育など職員交流を行う。
- ・ 施設間交流、交換保育等を進める。

(1) ぐうたらジャーニー（外部出張研修）

第一回目 令和8年5月21日～5月22日

第二回目 令和8年10月22日～10月23日

第三回目 令和9年1月28日～1月29日

(2) ほいくらゼミ（ぐうたら村他園交流研修）

ほいくらゼミの学びのデザインは、大妻女子大学の保育者の養成課程の授業であったり、汐見先生が長年考えてこられた学びの本質であったり、保育の実践者の学びのことを熱量高く考える様々な園長や研究者の皆さんと、話し合いと実践を交互に重ねてきた約10年間の積み重ねから生まれたものです。

「ほいくらゼミ」と銘打って実施してからは、今年度で4年目となります。

参加園は15園程度から25名程度を想定しています。

実践現場に戻ってからのこと、園外に保育を語り合う仲間を作ること、そのバランスを考えて、1園から数名ずつの参加をお願いしています。

(実施予定日)

令和8年4月28日、6月5日、10月1日、12月15日

法人より2名参加予定

(3) けやの森自然塾講座

第一回目 令和8年5月30日 汐見稔幸先生・フレネ学校ゴ先生

第二回目 令和8年9月 予定

(4) 階層別研修(トミーの日)(富山大士先生)

ジュニアリーダー研修(～入職3年目)。ミドルリーダー研修(入職3年目～)、シニアリーダー研修(入職7年目～)を対象に階層別の研修を行う。

第一回目 令和8年7月17日

第二回目 令和8年11月17日

第三回目 令和8年12月15日

第四回目 令和9年1月19日

第五回目 令和9年2月16日

(5) 保育環境ワークショップ(井上寿先生)

第一回目 令和8年7月9日

第二回目 令和8年7月30日

第三回目 令和8年9月18日

第四回目 令和8年10月15日

第五回目 令和8年12月11日

第六回目 令和9年1月14日

第七回 令和9年2月18日

5. ICT化(令和8年度)、専門家を配置し推進します(事務の合理化)

6. 社会福祉充実計画について

令和7年度の社会福祉充実残額を踏まえ、伊佐沼地区 LOCO タウンの見直し、幼保連携型認定こども園化を進めます。

以 上

令和8年度事業計画

伊佐沼すまいる保育園

伊佐沼すまいる保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長					
----	--	--	--	--	--

法人理念		笑顔をふやす		保育理念		自分のことが好きなこども（養護） 自分のことができるこども（教育）				幼児教育 において 育成すべき 資質・能力				
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子 ・あたまを使うことが大好きな子 ・ひとと関わることが大好きな子		令和8年度 法人テーマ		令和8年度 園のテーマ		自然 主体性 えほん・わらべうた						
年齢別目標		0歳児	・心地よい生活の中で、よく食べ（飲み）、よく眠り、よく遊ぶ。				3歳児	・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。			①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・ 表現力等の基礎 ③学びに向かう力・ 人間性等			
		1歳児	・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。				4歳児	・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、考えて行動する。						
		2歳児	・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。				5歳児	・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。						
保育の内容		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		
養護	生命の保持	・健康や安全に配慮し、一人ひとりの生活リズムを大切にし、生理的欲求を十分に満たす。		・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。		・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。		・自分でしようとする気持ち을大切にし、基本的生活習慣が身につくよう見守る。		・健康で安全な生活に必要な習慣に関心を持ち、自ら行えるよう援助する。		・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。		
	情緒の安定	・一人ひとりとの関わりを大切にし、保育者との愛着や信頼関係を築く。		・自分の思いをしきさや言葉で表す喜びを感じられるようにする。		・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。		・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。		・主体的な活動を通して自発性を高め、自信が持てるように働きかける。		・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。		
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。		健康	・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が整い、感覚遊びを楽しむ。		・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等で戸外を十分に歩く。		・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。		・全身を使い、様々な遊具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。		・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	・安心できる環境の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係	・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。		・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。		・友だちと思いを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぼうとする。		・自分の意見をもち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。		・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもつ。	
	身近なものとの関わり感性が育つ			環境	・身近な環境に親しみ、保育者と共に生活や遊びを楽しむ。		・植物や生き物、土・水・泥などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。		・自然や事象に親しみ、自分から関わろうとする。		・身の回りの物の色・量・形などに関心を持ち、数えたり比べたりする。		・生活の中で物の性質や数量、図形、文字、時間などに関心をもって関わる。	
				言葉	・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使おうとする。		・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。		・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。		・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。		・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。	
環境構成		・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		人間関係	・自由に関わりあえる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通じて、社会性を育めるよう、場を提供していく。		・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・創造力を育むためのコーナーやブロック遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。		・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。		・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。 ・跳び箱や縄跳びなどの運動器具を充実させる。	
					・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。		・様々な音や色、形や手触り、動きなどに気づき、感じたことを表現する。		・書いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。		・友だちとイメージを共有し、演じて遊んだり、合奏やダンスをしたりする楽しさを味わう。	
主な行事		保育参加／身体測定／誕生会／避難訓練／触れ合い遊び会／普通救命救急／ハロウィン／ウィンターフェスタ／大掃除／節分会／懇談会／お別れ遠足／害虫駆除／入園式／慣れ保育／七夕／プール開き												
社会的責任				厨房と保育の一体化		異年齢保育		インクルーシブ保育		長時間にわたる保育		職員の資質向上		
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。				・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。		・年齢という枠組みを超えて、互いに良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。		・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。		・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びの時間、遊びの時間をバランスよく配置する。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してくつろげる環境を提供し、健康と安全を第一に考える。		・すまいる委員会に設置する、人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得、維持・向上を図る。		
												⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現		

令和8年度事業計画

三丁目すまいる保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画

法人理念		笑顔をふやす		保育理念		自分のことが好きなことも（養護）		自分のことができることも（教育）		幼児教育 において 育成すべき 資質・能力				
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子 ・あたまを使うことが大好きな子 ・ひとと関わるのが大好きな子		令和8年度 法人テーマ		保育心得 ・時間と空間の制限を緩やかにする ・子どもの自由な挑戦を大切に ・目に見えない理由に寄り添う		令和8年度 園目標 3つのコンパス ・子どもたちの好きをみつけ、得意を伸ばす ・子どものつぶやきを拾い、ともに保育をつくる ・体験知を大切にする						
年齢別目標		0歳児 ・心地よい生活の中で、よく食べ（飲み）、よく眠り、よく遊ぶ。				3歳児 ・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。				①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・ 表現力等の基礎 ③学びに向かう力・ 人間性等				
		1歳児 ・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。				4歳児 ・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、考えて行動する。								
		2歳児 ・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。				5歳児 ・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。								
保育の内容		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		
養護	生命の保持	・健康や安全に配慮し、一人ひとりの生活リズムを大切に、生理的欲求を十分に満たす。		・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。		・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。		・自分でしようとする気持ちを大切に、基本的な生活習慣が身につくように見守る。		・健康で安全な生活に必要な習慣に関心を持ち、自ら行えるよう援助する。		・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。		
	情緒の安定	・一人ひとりの関わりを大切にし、保育者との愛着や信頼関係を築く。		・自分の思いをしきさ言葉で表す喜びを感じられるようにする。		・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。		・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。		・主体的な活動を通して自発性を高め、自信が持てるように働きかける。		・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。		
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。		健康	・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が整い、感覚遊びを楽しむ。		・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等戸外を十分に歩く。		・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。		・全身を使い、様々な遊具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。		・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。	
	身近な人と気持ちの通じ合う	・安心できる環境の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係	・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。		・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。		・友だちと思いを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぼうとする。		・自分の意見をもち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。		・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもつ。	
		環境			・身近な環境に親しみ、保育者と共に生活や遊びを楽しむ。		・植物や生き物、土・水・泥などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。		・自然や事象に親しみ、自分から関わろうとする。		・身の回りの物の色・量・形などに関心をもち、数えたり比べたりする。		・生活の中で物の性質や数量、図形、文字、時間などに関心をもって関わる。	
	身近なものとの関わり感性が育つ	・見る、触れる、探索する等、身近な環境に自分から関わろうとする。 ・身体の一部感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動きで表現する。		言葉	・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使うようになる。		・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉の繰り返し、模倣したりして遊ぶ。		・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。		・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。		・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。	
環境構成	・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		・自由に動き回れる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通じて、社会性を育てるよう、場を提供していく。		・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・創造力を育むためのコーナーやブロック遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。		・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。		・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。 ・跳び箱や縄跳びなどの運動器具を充実させる。		①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重	
	主な行事		慣れ保育、保育参加、井上先生ワークショップ、ウィンターフェスタ、にぶんのいち卒園式											
社会的責任				厨房と保育の一体化		異年齢保育		インクルーシブ保育		長時間にわたる保育		職員の資質向上		
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。				・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。		・年齢という枠組みを超えて、互い良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。		・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。		・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びの時間、遊びの時間をバランスよく配置する。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してくつろげる環境を提供し、健康と安全を第一に考える。		・すまいる委員会に設置する、人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得、維持・向上を図る。		
												⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現		

令和8年度事業計画

鶴ヶ岡すまいる保育園

鶴ヶ岡すまいる保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長					
----	--	--	--	--	--

法人理念		笑顔をふやす		保育理念		自分のことが好きなことも（養護）		自分のことができることも（教育）		幼児教育 において 育成すべき 資質・能力	
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子 ・あたまを使うことが大好きな子 ・ひとと関わるのが大好きな子		令和8年度 法人テーマ				令和8年度 園目標	・子どものつぶやきをひろい、子どもたちと共に計画を作成することで、一人一人の好きの気持ちや興味、関心を紡いでいく。 ・大人が先回りせず、子どもたちの体験知を大切に。 ・保護者や地域の方々の居場所づくりに努める。（縁側、地域の行事参加、地域とのつながりなど）		
年齢別目標		0歳児		・心地よい生活の中で、よく食べ（飲み）、よく眠り、よく遊ぶ。		3歳児		・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。			①知識及び技能の基礎
		1歳児		・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。		4歳児		・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、考えて行動する。			
		2歳児		・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。		5歳児		・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。		②思考力・判断力・表現力等の基礎	
保育の内容		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児	5歳児
養護	生命の保持	・健康や安全に配慮し、一人ひとりの生活リズムを大切にし、生理的欲求を十分に満たす。		・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。		・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。		・自分でしようとする気持ちを大切に、基本的な生活習慣が身につくように見守る。		・健康で安全な生活に必要な習慣に関心を持ち、自ら行えるよう援助する。	・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。
	情緒の安定	・一人ひとりとの関わりを大切にし、保育者との愛着や信頼関係を築く。		・自分の思いをしぐさや言葉で表す喜びを感じられるようにする。		・自己主張を丁寧を受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。		・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。		・主体的な活動を通して自発性を高め、自信が持てるように働きかける。	・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。		健康	・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が整い、感覚遊びを楽しむ。	・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等で戸外に十分に歩く。	・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。		・全身を使い、様々な遊具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。	・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	・安心できる環境の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係	・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。	・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。	・友だちと思いを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぼうとする。		・自分の意見を持ち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。	・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しむ。	
		身近なもの と関わり 感性が育つ	・見る、触れる、探索する等、身近な環境に自分から関わろうとする。 ・身体の一部感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動きで表現する。		環境	・身近な環境に親しみ、保育者と共に生活や遊びを楽しむ。	・植物や生き物、土・水・泥などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。	・自然や事象に親しみ、自分から関わろうとする。		・身の回りの物の色・量・形などに関心を持ち、数えたり比べたりする。	・生活の中で物の性質や数量、図形、文字、時間などに関心をもって関わる。
					言葉	・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使うようになる。	・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。	・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。		・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。	・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。
				表現	・生活の中で、様々なものから刺激を受け、心ゆくまで関わることを楽しむ。	・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。	・様々な音や色、形や手触り、動きなどに気づき、感じたことを表現する。		・書いたり、作ったりすることを楽しめ、遊びに使ったり、飾ったりする。	・友だちとイメージを共有し、演じて遊んだり、合奏やダンスをしたりする楽しさを味わう。	
環境構成		・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		・自由に動き回れる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通じて、社会性を育めるよう、場を提供していく。		・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・創造力を育むためのコーナーやブロック遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。		・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。	・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。 ・より自由に素材を使って楽しめるよう環境構成を行う。
主な行事		入園式／子どもの日／懇談会／総合防災訓練／七夕／大井まつり／鶴ヶ岡秋祭り／保育参加／お月見／親子ふれあい遊び会／内科検診／ハロウィン／焼き芋／ウィンターフェスタ／正月あそび／節分／ひな祭り／卒園式 ＊季節の行事については、園内で楽しむと同時に保護者参加も適宜呼び掛けていく									
社会的責任		厨房と保育の一体化		異年齢保育		インクルーシブ保育		長時間にわたる保育		職員の資質向上	
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。 ・積極的に地域に働きかけ、イベントなどを共同開催したり、地域の方の居場所づくりに努める。（地域のようどころ「縁側」など）		・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。 ・畑の野菜の収穫など通常の調理では難しい食材なども、適宜運携を取りながら子どもたちに提供できるよう検討する。		・年齢という枠組みを超えて、互いに良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。 ・クラスに関わらず、子どもたちの興味関心に応じて、子どもたちが生活の場を選択できるようにする。		・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。 ・一人一人の発達やニーズに応じて環境整備と合理的配慮を実施する。		・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びの時間、遊びの時間をバランスよく配置する。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してとらける環境を提供し、健康と安全を第一に考える。		・すまいる委員会に設置する、人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得、維持・向上を図る。 ・研修の機会だけでなく、月の会議などを活用しながら非常勤職員も含めて学びの場をつくれるよう組織的に取り組む。	
		⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現									

令和8年度事業計画

高階すまいる保育園

高階すまいる保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画



法人理念		笑顔を増やす		保育理念		自分のことが好きな子を育みます（養護）		自分のことができる子を育みます（教育）		幼児教育 において 育成すべき 資質・能力			
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子を育みます ・あたまを使うことが大好きな子を育みます ・ひとと関わるのが大好きな子を育みます		令和8年度 法人テーマ		令和8年度 園目標		【保護者アンケートの結果を踏まえて】 ・自分で考えて選び、試しながら行動する主体性を育てる。 ・自分の気持ちに気づき、表し、落ち着きを取り戻す力を育てる。 ・友だちや大人と関わり、違いを認め合いながら豊かな関係を築く力を育てる。					
年齢別目標		0歳児	・心地よい生活の中で、安心して食べ・眠り・遊びながら、興味を示したものに手を伸ばし、関わりようとする姿を大切に育てる。	3歳児	・自分で選んで行動する喜びを味わい、遊びの中で生まれるつぶやきや気づきを友だちや大人に伝えながら、関わりを楽しむ。	4歳児	・興味のあることに意欲的に取り組み、考えたり試したりしながら遊びや生活を広げ、友だちと意見を交わす経験を重ねる。	5歳児	・友だちと力を合わせて遊びや活動をつくり上げる中で、自分の思いや考えを言葉で伝え、試行錯誤しながら達成感や充実感を味わう。	①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・表現力等の基礎 ③学びに向かう力・人間性等			
保育の内容		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児	
養護	生命の保持	・安心できる環境の中で、十分に食べ・眠り・排泄し、心地よく過ごせるよう生活リズムを整えながら、興味を示したものに安全に関われるよう見守る。 ・保育者との安定した関わりの中で、抱かれる・声をかけられる・応答してもらう心地よさを感じ、つぶやきや表情・仕草が受けとめられることで安心感を育む。		・安心できる環境の中で、食事・睡眠・排泄などの生活リズムが整い、心地よく過ごせるようにしながら、興味を示したものに安全に関われるよう見守る。 ・保育者との安定した関わりの中で、甘えたり離れたりしながら気持ちを調整し、つぶやきや仕草が受けとめられることで安心感を深める。		・自分でやってみたい気持ちを尊重しながら、食事・排泄・着脱などの生活習慣を無理なく身につけ、心地よく過ごせるようにする。 ・気持ちの揺れを受けとめてもらいながら、言葉やつぶやき・仕草で思いを表し、安心して気持ちを切り替えられるようにする。		・自分でできることを増やし、生活の見通しを持って過ごし、必要ときには援助を受けながら心地よい生活リズムを整えていく。 ・自分の気持ちに気づき、言葉や表情で伝えようとする姿を受けとめ、友だちとの関わりの中で気持ちを調整しながら安心して過ごせるようにする。		・生活の流れを理解し、自分で整えようとする姿を支えながら、健康で快適に過ごせるようにする。 ・友だちとの関わりの中で生まれる気持ちの揺れを受けとめ、言葉で伝えたり調整したりしながら、安心して関係を築いていく力を育む。		・自分の生活を見通し、必要なことを自分で整えながら、健康で安全に過ごす力を育てる。 ・友だちと協力したり意見を交わしたりする中で、自分の気持ちを理解し、相手の思いにも気づきながら、安定した気持ちで活動に取り組めるようにする。	
	情緒の安定												
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・安心できる生活の中で、気になったものに手を伸ばしたり触れたりしながら、自分で選んで関わることを楽しみ、試す経験を重ねていく。		健康 ・歩く・食べる・遊ぶなどの基本的な動きを十分にを行い、自分でやってみようとする気持ちを大切にしながら、心地よく体を動かす。		・自分でやってみたい気持ちを尊重し、食事・排泄・着脱などの生活行動を試しながら身につけ、体を動かす心地よさを味わう。		・自分でできることを増やし、生活の見通しを持ちながら、体を動かす遊びを意欲的に楽しむ。 ・子どもの選択により午睡を取り入れる。		・生活の流れを理解し、自分で整えながら、全身を使った遊びに意欲的に取り組む。		・自分の生活を見通し、必要なことを自分で整えながら、体を動かす活動に継続して取り組む。	
	身近な人と気持ちが通じ合う	・保育者との温かな関わりの中で、つぶやきや表情・仕草で思いを伝え、それを受けとめられる心地よさを感じながら、気持ちのやりとりを広げていく。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係 ・身近な大人に安心して気持ちをゆだね、甘えたり離れたりしながら、つぶやきや仕草で思いを伝え、気持ちの通い合いを広げる。		・言葉やつぶやきで思いを伝え、身近な人との関わりを広げる。 ・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。		・友だちと関わる中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の気持ちに気づいたりしながら、関係を築いていく。		・友だちとの関わりの中で、気持ちの行き違いを調整しながら、協力して遊びや活動を進める。		・友だちと協力し、意見を交わしながら活動をつくり上げ、関係の中で自分と相手の気持ちを大切にすること。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもつ。	
	身近なものに関わり感性が育つ	・身近な環境や素材に触れ、音・色・感触などの刺激を全身で感じ取りながら、興味を広げ、感性の芽生えを育む。 ・身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動きで表現する。		環境 ・気になったものに自分から手を伸ばし、触れたり試したりしながら、興味を広げていく。		言葉 ・感じたことや思いを言葉で表し、伝わる喜びを味わう。 ・絵本や紙芝居を楽しむ、簡単な言葉を読み返して遊ぶ。		表現 ・好きな遊びや素材に触れ、動きや声、簡単な造形などで思いを表す。 ・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。		・自分の思いや考えを言葉で伝え、友だちとのやりとりの中で言葉の使い方を広げる。 ・絵本、紙芝居のストーリーや言葉のおもしろさに気づく。		・自分の思いや考えを言葉で伝え、友だちとのやりとりの中で言葉の使い方を広げる。 ・絵本、紙芝居のストーリーや言葉のおもしろさに気づく。	
	環境構成	・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		・自由に動き回れる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通じて、社会性を育めるよう、場を提供していく。		・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・子どもが自分で選び、試しながら遊びを上げられるよう、環境を柔軟に組み替える。 ・創造力を育むコーナーや自然に触れる機会を多く取り入れ工夫する。		・子どものつぶやきや興味の変化を受けとめ、環境を更新し続ける。 ・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。		・子どもの興味やつぶやきから生まれた遊びを反映し、コーナーを共ににつくる。 ・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。	
主な行事		【年間行事】入園式、慣れ保育、保育参加、親子ふれあい遊び会、内科健診、歯科検診、七夕、夏祭りウィーク、水かけ祭りウィーク、遠足（けやの森ほか）、芋ほり、ハロウィン、ウィンターフェスタ、もちつき（鏡餅つくり）、節分、ひな祭り、お別れ遠足、卒園式 【毎月の行事】お誕生会、身体測定ウィーク、避難訓練、散歩訓練、弁当の日（10～3月）										①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	
社会的責任		厨房と保育の一体化		異年齢保育		インクルーシブ保育		長時間にわたる保育		職員の資質向上		⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現	
・子どもの主体的な選択やつぶやきを尊重し、一人ひとりの育ちを保障する。 ・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。		・子どもの日々の姿やつぶやきを共有し、保育をともにつくる関係を育てる。 ・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。		・興味や遊びの広がりに応じて自然に関わり合い、思いやりや社会性を育む。 ・年齢という枠組みを超えて、互いにある刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。		・子どもの思いやつぶやきを丁寧に受けとめ、個々のペースに応じた関わりを大切にすること。 ・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。		・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びの時間、遊びの時間をバランスよく配置すること。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してくつろげる環境を提供し、健康と安全を第一に考える。		・すまいる委員会に設置する人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得・維持・向上を図る。			

令和8年度事業計画

板橋保育園

板橋保育園

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長	浅川				
----	----	--	--	--	--

法人理念		笑顔を増やす		保育理念	自分のことが好きな子を育みます（養護）		自分のことができる子を育みます（教育）		幼児教育 において 育成すべき 資質・能力
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子を育みます ・あたまを使うことが大好きな子を育みます ・ひとと関わるのが大好きな子を育みます		令和8年度 法人テーマ		令和8年度 園目標	【保護者アンケートの意見を踏まえて】 1. 主体的に行動する子ども 2. 人とながり共に育つ子ども 3. 挑戦し続ける子ども 4. 思いを表現し伝え合う子ども		
年齢別目標		0歳児				3歳児	・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。		①知識及び技能の基礎 ②思考力・判断力・ 表現力等の基礎
		1歳児	・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。			4歳児	・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、気持ちを伝え合いながら考えて行動する。		
		2歳児	・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。			5歳児	・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。		
保育の内容		0歳児		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
養護	生命の保持			・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。	・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。	・自分でしようとする気持ちを大切にし、基本的な生活習慣が身につくよう見守る。	・健康で安全な生活に必要な習慣に関心をもち、自ら行えるよう援助する。	・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。	③学びに向かう力・人間性等
	情緒の安定			・自分の思いをしきさや言葉で表す喜びを感じられるようにする。	・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。	・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。	・主体的な活動を通して自発性を高め、自信が持てるように働きかける。	・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。	
教育	健やかに伸び伸びと育つ			健康 ・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が強い、感覚遊びを楽しむ。	・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等で戸外に十分に歩く。	・十分に体を動かしながら、様々な用具や道具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。	・全身を使い、様々な道具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。	・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。	幼児期の 終わりにまでに 育てほしい 10の姿
	身近な人と気持ちが通じ合う			人間関係 ・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。	・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。	・友だちと気持ちを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぼうとする。	・自分の意見をもち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。	・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもつ。	
				環境 ・身近な環境に親しみ、保育者と共に生活や遊びを楽しむ。	・植物や生き物、土・水・泥などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。	・自然や事象に親しみ、自分から関わろうとする。	・身の回りの物の色・量・形などに関心をもち、数えたり比べたりする。	・生活の中で物の性質や数量、図形、文字、時間などに関心をもって関わる。	
	身近なものと関わり感性が育つ			言葉 ・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使おうとする。 表現 ・生活の中で、様々なものから刺激を受け、心ゆくまで関わることを楽しむ。	・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。 ・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。	・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。	・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。 ・書いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。 ・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊厳などに対する感覚を豊かにする。・感じたことや思ったこと、想像したことなどを自由に工夫して表現する。	
環境構成				・異味の芽やつぶやきを受け止め、遊びの広がりにつなげる。 ・自ら選んで試せる環境を設える。 ・小さな成功体験を積み重ね意欲と自信を育む。 ・自由に動ける空間を確保し探索活動を支える。 ・服を着つつ中で社会性の芽生えを育てる。	・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。 ・友だちとの関わりを見守り、橋渡しをする。	・創造力を育むためのコーナーや構成遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。 ・発達に応じて環境・言葉かけを調整する。	・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。 ・自ら遊び、工夫し、遊びを発展させる。	・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。 ・縄跳びなどの運動器具を充実させる。 ・主体的に遊び工夫し、発展させる。	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重
主な行事		【年間行事】入園式、慣れ保育、こどもの日、保育参加、保護者会、内科健診、歯科検診、七夕、夏祭りごっこ、防災引き渡し訓練、すまいるフェス（運動遊びを楽しむ会）、伝承遊びウィーク（お正月遊び）、節分、ひな祭り、お別れ遠足（5歳児）、卒園お祝い会、お別れと部屋の移動 【毎月の行事】誕生会、身体測定ウィーク、避難訓練							⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
社会的責任		厨房と保育の一体化		異年齢保育	インクルーシブ保育	長時間にわたる保育	職員の資質向上 <td>⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現</td>		⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報や適切な取り扱いとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。 ・安全で安心できる保育環境を維持するため、事故防止や危機管理体制を整え、社会に対して説明可能な運営を行う。		・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。 ・調理過程や食材に触れる機会を設け、五感を使った体験を通して“食べること”への主体的な学びを育てる。		・年齢という枠組みを超えて、互い良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。 ・年上児が年下児を思いやって関わる経験や、年下児が年上児に憧れて模倣する経験を通して、役割意識や自己肯定感を育む。	・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。 ・遊びを通して様々な国の言葉や文化に触れる機会をつくり、国の違いを知る。	・個々の発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びと遊びの時間をバランスよく配置する。 ・健康と安全を第一に考え集団生活の疲れを受け止め、くつろげる環境を整備する。 ・家庭との連携を密にし、一日の生活が途切れなく安心して過ごせるように支える。	・すまいる委員会に設置する、人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得、維持・向上を図る。 ・職員の専門性向上と協働体制を整え、保育の質と安全性を高める。		

令和8年度事業計画

となりのすまいる保育園

となりのすまいる保育

2026年（令和8年度） 全体的な計画

園長	山津				
----	----	--	--	--	--

法人理念		笑顔をふやす		保育理念		自分のことが好きなこども（養護）		自分のことができるこども（教育）		幼児教育 において 育成すべき 資質・能力					
保育目標		【自立心を育む3つの大好き】 ・からだを使うことが大好きな子 ・あたまを使うことが大好きな子 ・ひとと関わるのが大好きな子		令和8年度 法人テーマ		保育心得 ・時間と空間の制限を緩やかにする ・子どもの自由な挑戦を大切にする ・目に見えない理由に寄り添う		令和8年度 園目標 3つのコンパス ・子どもたちの好きをみつけ、得意を伸ばす ・子どものつぶやきを拾い、ともに保育をつくる ・体験知を大切に							
年齢別目標		0歳児 ・心地よい生活の中で、よく食べ（飲み）、よく眠り、よく遊ぶ。				3歳児 ・自分でできる喜びを味わい、友だちと関わることを楽しむ。					①知識及び技能の基礎				
		1歳児 ・探索活動を通して聞く、見る、触れるなどの経験をし、興味や好奇心をもつ。				4歳児 ・意欲的に遊びや生活に取り組む中で、考えて行動する。									
		2歳児 ・自己を十分に表しながら、何でも自分でやってみようとする。				5歳児 ・友だちと協力しながら遊びや生活を展開し、充実感や達成感を味わう。									
保育の内容		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		②思考力・判断力・ 表現力等の基礎	
養護	生命の保持	・健康や安全に配慮し、一人ひとりの生活リズムを大切に、生理的欲求を十分に満たす。		・食欲や排泄、睡眠などの適切な時間を確保し、健康的な生活が送れるようにする。		・健康で安心できる環境の中で、意欲的に生活や遊びが継続できるようにする。		・自分でしようとする気持ちを大切に、基本的生活習慣が身につくよう見守る。		・健康で安全な生活に必要な習慣に関心を持ち、自ら行えるよう援助する。		・生活習慣を身につけ、運動遊びに意欲的に取り組み、体力の向上を図る。			
	情緒の安定	・一人ひとりとの関わりを大切に、保育者との愛着や信頼関係を築く。		・自分の思いをしぐさや言葉で表す喜びを感じられるようにする。		・自己主張を丁寧に受け止め、保育者が仲立ちとなり、友だちとの関わりを広げる。		・自分なりの言葉で表現して、友だちと遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。		・主体的な活動を通して自覚性を高め、自信が持てるように働きかける。		・自分の力を発揮し、社会生活に必要な力を身につけて行動できるようにする。			
教育	健やかに伸び伸びと育つ	・身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。 ・食事、睡眠等の生活リズムの感覚が芽生える。		健康	・身の回りのことに興味を持ち、十分に体を動かして体幹が整い、感覚遊びを楽しむ。		・身の回りのことを自分からしようとする。 ・全身を使って遊んだり、散歩等で戸外に十分に歩く。		・十分に体を動かしながら、様々な用具や遊具を使った遊びを楽しむ。 ・必要に応じて午睡をとる。		・全身を使い、様々な遊具や用具で工夫して遊ぶ。 ・生活に必要な習慣や態度を身につけようとする。		・目標をもって挑戦したり、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、様々な生活や遊びに意欲的に取り組む。		
	身近な人と気持ちが通じ合う	・安心できる環境の中で、身近な人と共に過ごす喜びを感じる。 ・体の動きや表情、声などにより、保育者と気持ちを通わせようとする。		人間関係	・保育者を仲立ちとして、友だちとのやり取りを楽しみ、大人以外の人への関心をもつ。		・友だちと一緒に過ごす楽しさを知り、様々な遊びを通して友だちとの関わりが深まる。		・友だちと思いを伝え合ったり、関わりを深める中で、簡単なルールを守って遊ぼうとする。		・自分の意見を持ち、相手に伝える中で、相手の意見も聞いて受け入れる。		・友だちと協力する。 ・地域の人など、自分の生活に関係の深い人々に親しみをもち、		
	身近なものに関わり感性が育つ			環境	・身近な環境に親しみ、保育者と共に生活や遊びを楽しむ。		・植物や生き物、土・水・泥などの自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。		・自然や事象に親しみ、自分から関わろうとする。		・身の回りの物の色・量・形などに関心を持ち、数えたり比べたりする。		・生活の中で物の性質や数量、図形、文字、時間などに関心をもって関わる。		
				言葉	・保育者の応答的な関わりにより、言葉を理解し、簡単な言葉を使おうとする。		・絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして遊ぶ。		・経験したことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。		・絵本、紙芝居、お話などを通じて、ストーリーや言葉のおもしろさに気づく。		・自分の考えを伝え、相手の話も聞き、折り合いをつけて遊びを発展させる。		
				表現	・生活の中で、様々なものから刺激を受け、心ゆくまで関わることを楽しむ。		・様々な事象や出来事を通して、経験したことを自分なりに表現する。		・様々な音や色、形や手触り、動きなどに気づき、感じたことを表現する。		・書いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。		・友だちとイメージを共有し、演じて遊んだり、合奏やダンスをしたりする楽しさを味わう。		
環境構成		・安全で快適なスペースを確保する。 ・掃除等を徹底し、清潔で衛生的な環境を維持する。		・自由に動き回れる広いスペースを提供し、探索活動を支援する。 ・順番待ちの経験を通じて、社会性を育てるよう、場を提供していく。		・様々な遊び道具や絵本を用意し、興味を引き出す。 ・安全に走ったり跳んだりできるスペースを確保する。		・創造力を育むためのコーナーやブロック遊びのスペースを設け、自然に触れる機会を多く取り入れる。		・学びの場としてのコーナーを設け、より複雑な遊びや活動に対応できる多機能なスペースを提供する。		・絵画、工作、音楽等、創造力を刺激するための道具や材料を揃える。 ・跳び箱や縄跳びなどの運動器具を充実させる。			
主な行事		入園式、慣れ保育、親子ふれあい遊び会、保育参加、ワークショップ、ウィンターフェスタ、卒園式										③学びに向かう力・人間性等			
社会的責任				厨房と保育の一体化		異年齢保育		インクルーシブ保育		長時間にわたる保育		職員の資質向上		④健康な心と体	
・子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重した保育を行う。 ・子どもの個人情報を適切に取り扱うとともに、保護者の苦情等の早期解決に努め、説明責任を果たす。 ・地域社会との交流や連携を図り、園の保育理念や方針を適切に説明し、地域に開かれた園となるよう親和性を高める。				・栄養士、調理士等、厨房スタッフと保育者が協力し、子どもたちの食育と日常の保育を統合することで、健康的な食生活の基礎を築くとともに、食に対する興味・関心を育てる。		・年齢という枠組みを超えて、互いに良い刺激を受けながら、子どもたちの成長を促す。 ・異年齢児との関わりによって、思いやりや相手を意識する気持ちなど、社会性や協調性を育む。		・全ての子どもたちが多様性を尊重されながら、安心して過ごせる環境を提供し、個々のニーズに応じた支援を行う。 ・全ての子どもたちが一緒に活動し、学び合うことで、互いの理解と絆を深める。		・子どもの発達、生活リズム、心身の状態等に配慮し、適度な運動、静かな時間、創造的な活動、学びの時間、遊びの時間をバランスよく配置する。 ・子どもの疲れを受け止め、安心してくつろげる環境を提供し、健康と安全を第一に考える。		・すまいる委員会に設置する、人権監査委員会、コンプライアンス委員会等の決議に従い、透明性の高い組織運営を行う。 ・自己評価に基づく課題を踏まえ、研修等を通じて職務内容に応じた専門性を高め、知識・技術の習得、維持・向上を図る。		⑤自立心	
														⑥協同性	
														⑦道徳性・規範意識の芽生え	
														⑧社会生活との関わり	
														⑨思考力の芽生え	
														⑩自然との関わり・生命尊重	
														⑪数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚	
														⑫豊かな感性と表現	